

## 居場所づくり 地域大学校

### 兵庫県「いなみ野学園」にみる高齢者人材の養成（まとめ）

- 1 市町村合併と人材養成のかかわり
- 2 先進的な「地域高齢者大学校」の事例
- 3 カリキュラム

#### 1 市町村合併と人材養成のかかわり

これまでの自治体合併の大義のひとつは、地域の発展を担う人材の養成にあった。

「明治の大合併」のときには、わが村の小学校が合併のシンボルとされた。村立の「尋常小学校」は子どもたちに多くの夢を与えた。その夢はいつしかお国のためとなり、半世紀の後には戦争へと子どもたちを駆り立てていったが。

（300～500戸の村に1校。教育、戸籍、徴税、土木、救済など。7万1314町村が39市1万5820町村に。明治21＝1888年～明治22＝1889年）。

「昭和の大合併」のときには、わが町の中学校が合併のシンボルとされた。子どもたちは町立の「新制中学校」を卒業すると、地元に残るよりも都会へ出て行って国の復興と高度成長の担い手となった。

（8000人の町に1校。教育、消防、保健衛生など。昭和28＝1953～昭和31＝1956年。9868市町村が3975市町村に）

さて「平成の大合併」（1000基礎自治体、12万人をめざす）で、新しい市は何を教育のシンボルにしようとしたか。合併のステップからいうと、人材教育については、単純化していえば、レベルとしては「わが市の大学校」が期待された。ただし「少子・高齢化」時代の養成対象としては、長い高齢期を地域で暮らすことになる高齢者であることも予測された。すでに先進的な「高年者大学校」の事例（兵庫県「いなみ野学園」など）はあったから、将来の地域発展のために活躍する人材を育成するために、地域性を加味したカリキュラムで構成される「地域高年者（シニア）大学校」が合併協議のなかで検討されても不思議ではなかった。

しかし財政難のもとでの合併協議の課題は、「地方分権」「生活圏の広域化」「少子・高齢化」であったものの、「少子・高齢化」については、どこも将来の社会保障サービスの低下への危惧が指摘され、生涯学習の充実とシルバー人材センターの拡充が当面の対応とされたが、「国土の均衡ある発展」から「個性ある地域の発展」（まちづくり）のための高齢者の知識・技芸を活かした養成機関の検討が広くなされることはなかった。

「平成の大合併」といわれた全国規模の市町村合併協議は、平成18（2006）年3月に一段落した。平成11（1999）年3月にあった3232の市（670）町（1

994)村(568)は、平成18(2006)年3月には1821の市(777)町(846)村(198)になった。合併特例法(新法)による県主導での第2ステージがその後も続いている。

自治体合併の成果はこれからである。地域の風土・伝統の特徴を知り、それを活かした地域の再生・発展をはかるのは、どこもこれからである。そのための高齢者人材は欠かせない。地域大学校の成立の遅速は、地域発展の差となって現れるだろう。

## 2 先進的な「地域高齢者大学校」の事例

まずは県レベルでの先行事例を、兵庫県が全国に先駆けて昭和44(1969)年に開設した高齢者大学校「いなみ野学園」(加古川市)に見てみたい。

4年制の「高齢者大学講座」それに2年制の「大学院」があつて、約1400人の高齢大学生が学んでいる。

中心になっているのは、4年制の「高齢者大学講座」で、生涯学習を通じて仲間づくりをするとともに、新しい生き方を創造し、地域社会の発展に寄与できるよう総合的、体系的な学習機会を提供するというのが趣旨。運営は財団法人兵庫県生きがい創造協会が当たっている。

資格は60歳以上の県在住者。入学金6000円、学習・教材費年額5万円(平成24年度)。障害保険2000円。

登校日は週1日、年間30回で120時間。専門学科は「園芸」、「健康福祉(健康づくり)」、「文化」、「陶芸」の4学科。専門学科別学習と教養講座を履修する。

朝の体操(9:40)からはじまり、午前は教養講座、午後は専門講座である。

学園の昼の食堂周辺は人生論に花が咲く。また週1回(水曜)は「クラブ活動」の日。囲碁、園芸、絵画、華道、ゲートボール、コーラス、ゴルフ、茶道、詩吟、写真、書道、水墨画、短歌、社交ダンス、テニス、能面、俳句、舞踊、盆栽、民謡、謡曲、表装、歌謡曲、探訪、英会話、グラウンド・ゴルフ、川柳、インターネット、太極拳、手描き友禅、将棋など30種余。

「いなみ野学園」の何が優れているかというと、専門講座の4つの学科にある。

- ・健康福祉科(健康づくり科)―高齢者のだれもが持っている自分の健康への関心と他者の実状を福祉として組み込む。卒業生は健常な高齢者として知り得た知識を活かして体の弱い人たちとの交流をはかる。ボランティア活動に積極的に参加。高齢者が元気で活動してくれることが自治体にとって負担が少ないことになる。
- ・文化学科―郷土の歴史、伝統、文化を勉強しながら守る活動に参加する。卒業生はそれぞれの地元の伝統や歴史を研究し守っていくようになる。まちの年中行事が安定して遂行されるようになる。
- ・園芸学科―自分の庭の草花、菜園、果樹について学ぶ。自家のことに始まり、近所、公園と緑のまちづくりに繋がっていく。卒業生が多くなるほど街の緑が豊かになり、

大事にされるようになる。(個人も学園も収益を得る活動が可能)

・陶芸学科―手作り技術が得意な人たちによる陶芸を中心にして、他の技芸のうえでつながりを形成する。さまざまな地元意匠の集積にあたっている。作品によって収益をうることができる。(個人も学園も)

それぞれのセクションの講座を学んだ人たちは、同窓生として60歳からの“生涯の友人”をえることができる。また自治体は卒業生が多くなればなるほど「まちづくり」の人材が豊かになる。教養講座ではタカラ・ジェンヌや地元新聞の論説委員や郷土研究者を講師に迎え、税金や財産管理、予防医学など高齢者が興味を持つものを取り上げて工夫をこらしている。

個人には高年期の知識・技術の豊かな人生を、一方で自治体にはまちづくりの人材が増えることになる「いなみ野学園」方式には、単なる生きがい学習で終始している各自治体が学ぶべき先進性をみることができる。

この高齢者大学校のメッカともいべき「いなみ野学園」にも運営のむずかしさがある。2万4000円であった学習・資料費を一気に6万円にしたところ定員割れを生じた(24年度は5万円に)。ほかの理由もあるであろうが、官民協働による文化事業として継続するためには、一般県民が参加しやすく納得のできる成果が得られることが必要になるだろう。

「いなみ野学園」は、1999年の「国際高齢者年」にあたって、「いなみ野宣言」(1999年11月19日。下記)をおこなっている。日本高齢者が国際的な視点をもって活動していた「いなみ野学園」があったことは、世界に誇るべきことである。

## 「いなみ野宣言」

ここいなみ野学園に集う私たちは、本年を「国際高齢者年」とする国連決議及び高齢者のための国連原則「自立、参加、ケア、自己実現、尊厳」を認識し、「すべての世代のための社会をめざして」意識改革と社会参加及び世代間の交流を図り、共生の精神を高揚させ、希望あふれる21世紀に向けて、次の宣言を行います。

### 1 高齢期に対する自己及び社会一般の意識改革に努めます。

高齢期に見られる消極的で固定的な意識を改革するため、積極的に多世代との交流を深め、信頼と尊敬を得るよう、夢や生きがいを持って行動します。

### 2 心身ともに健康で、自立した生活づくりに努めます。

スポーツや食生活の改善を積極的に行い、自他ともに身体的、精神的に自立する健康な生活づくりに努めます。

### 3 新たな自己発見、自己実現をめざし、社会に貢献するよう努めます。

生涯を通じて学ぶ喜びを持ち続け、自己の可能性を発見し、自己実現に努めながら、地域の文化、伝統を大切に、永年にわたって身につけた知恵と経験を生かして新しい社会の創造に努めます。

#### 4 地域の人と自然との共生に努めます。

地域の人々との絆を深め、すべての世代が共生する優しい社会づくりと、美しい自然に恵まれた環境づくりに努めます。

#### 5 英知を集め、21世紀へ夢と希望をもって行動します。

平和、平等、人権、地球環境など広く国内外の課題に目を向け、生き生きとした21世紀ビジョンを抱き、夢と希望の灯を高く掲げて行動します。

いなみ野学園ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~inamino/guid.html>

### 3 カリキュラム

カリキュラムについて (いなみ野学園高齢者大学講座)

一般講座と専門講座とがあって、一般講座は学年ごとに共通の教養講座である。専門講座は園芸、健康福祉、文化、陶芸の4学科で学年別に履修するもの。授業は月曜日・第一学年、火曜日・第二学年、木曜日・第三学年、金曜日・第四学年と曜日別に充てられている。午前中は教養講座、午後は学科別学習。

4年制であり4学科であること、3学期にわけて履修しているが、ここでは公開されている2学期(9月～12月)での講座にかぎって取り上げ、学科・年次などの多様な他校との比較で参考にしやすいよう整理した。

したがって講座内容は2学期の3分の1のものであり、税金・財産管理のこと、肥料・病虫害・イチゴやトマトの栽培のこと、認知症・生活習慣病・薬のこと、作家論・万葉集のこと、下絵つけ湯呑みや花瓶づくりなどはこの学期にはみえない。

◎講座内容の特徴。

- ・健康福祉科(健康づくり科)―高齢者のだれもが持っている自分の健康への関心と他者への広がり福祉として組み込む。卒業生は健常な高齢者として知り得た知識を活かして弱者である人たちとの交流をはかる。ボランティア活動にも積極的に参加。高齢者が元気で活動してくれることが自治体にとって負担が少ないことになる。
- ・文化学科―郷土の歴史、伝統、文化を勉強しながら地域へ関心を広げて保護活動に参加する。卒業生はそれぞれの地元の伝統や歴史を研究し守っていくようになる。まちな年中行事が安定して遂行されるようになる。
- ・園芸学科―自分の庭の草花、菜園、果樹について学ぶ。自家のことに始まり、近隣、公園と緑のまちづくりに繋がっていく。卒業生が多くなるほど街の緑が豊かになり、大事にされるようになる。まちづくりに直結した知識・技術の習得が可能。
- ・陶芸学科―手作り技術が得意な人たちによる陶芸を中心にして、他の技芸のうえでつながりを形成する。さまざまな地元意匠の集積にあたっている。作品によって収益をうるることができる。

それぞれの学科の講座を4年にわたって学んだ人たちは、同窓生として60歳からの

“生涯の友人”をえることができる。また自治体は卒業生が多くなればなるほど「まちづくり」の人材が豊かになる。

ここでは内容を中心にして回数は省略した。詳細については、いなみ野学園「講座案内」学習予定表を見てほしい。

### 教養講座

健康に関する講座:発達障害 高齢化と健康 笑いと健康 100歳になっても元気で生きるために 寄り添う心 健康づくり すこやかに生きる暮らしの知恵 心で治す体の病 血圧について ひきこもる若者たちの心と苦悩 スポーツの魅力 (フィギュアスケート) 音楽で心も体も元気に (音楽療法士)

文化に関する講座:クラシック音楽に親しむ 絵巻物に人の心を探る (高野大師行状図画を中心に) 韓国社会と文化 日中文化交流 中国光と影 寅さんと街 勝負師の先の読み方 考え方 (プロ棋士) 武道を極めた男 (嘉納治五郎と宮本武蔵) 赤穂義士伝 宇宙人ているの? (天文学) 楽しい植物学 日本英語は世界で通じる

地域づくりに関する講座:里地の生きものたち 環境防災 地域医療 東日本大震災と防災活動 自然エネルギー 世界遺産とまちづくり 震災と政治 日本の財政問題と現状 都市の歴史 (人と自然) 地域防犯のあり方 参画と協働

全科で参加する行事:フォーラム ニュースポーツ大会 体験発表 いなみ野祭 支部別地域活動

### 園芸学科専門講座

園芸実習 園外学習 根菜類の育て方 葉茎菜類の育て方 家庭果樹の育て方 花木の特性と用途 庭木の繁殖法 フラワーセンター 果樹の繁殖と苗木の育成 キウイフルーツとブルーベリーの育て方 バラの育て方 園芸用具の手入れ法刃物研ぎ 盆栽作りとその観賞 思い出は草花とともに 有機微生物の活用 虫を食べる植物の不思議

### 健康づくり学科専門講座

体育実技ストレッチ 体操メロディー体操 シニアのための食生活食事バランス 加工食品の表示について 高齢者医療制度 太極拳 測定結果 健康管理 脳トレレクリエーション 高齢者のための住環境 健康概論 (命を大切に・健康とホルモン・正しい健康情報とは・健康は健口から) ニュースポーツ (室内・屋外) 自然を楽しむネイチャーゲーム入門 ケアマネジャーから見た介護の現状 介護実践 腰痛を防ぐ介護の仕方 社会貢献 (事例紹介) グループで楽しむ (ゲームを作ろう) ストレスマネジメントアサーショントレーニング イベント企画の理論と実際 イベント企画と発表 脳トレーニング リズム体操 スポーツ障害と予防 屋内スポーツ 体力測定 チェアーエクササイズで足腰元気

## 文化学科専門講座

出版文化物語 平安時代の女流日記文化 園外学習（古寺・史跡巡り・姫路城とその周辺）  
報道写真とその現場 港の歴史（出会いと別れ） 比較文化 心の美しさ・挨拶のさわやか  
さ ミュージカルに挑戦 関西の文化とことば（大阪弁） 琵琶法師が伝えた平家物語 和  
泉式部の伝説と実像 街おこし・地域おこしイベント創造 淡路悠久の歴史（地方史） 播  
磨の歴史（祭りや民俗芸能を中心に） 日中文化交流の懸け橋（人生物語） 歴史と文化 姫  
路城 丹波の歴史・民俗 歌舞伎あれこれ（魂・伝統文化の楽しみ） 郷土の文学（但島編）  
自主講座 源氏物語の世界

## 陶芸学科専門講座

土練器の扱い方 セラローラの扱い方 箱型花器の作り方彫・象嵌について 練込皿につい  
て 練込皿の作陶 大井戸茶碗について 釉薬について 三彩について 交趾について  
金・銀彩について 卒業記念作陶展作品制作  
（堀内正範 記）